

地域在住高齢者による自主グループ設立に関連する要因

—質的研究—

介護予防マネジメントコース

5011A323-0 福嶋 篤

研究指導教員： 岡 浩一朗 准教授

【研究背景と目的】

少子高齢社会の我が国において、高齢者ができる限り要支援・要介護状態に陥らないようにするための取り組みである介護予防を実践していくことが求められている。

高齢者によるボランティア活動は介護予防の観点からも有意義とされ、その中でも高齢者が地域の介護予防活動として取り組む自主グループ活動は社会的に期待が高まっている。

本研究の目的は地域の高齢者が介護予防の実践を目的としたボランティア養成講座を介して自主グループの設立に至ったプロセスを質的に分析することで、高齢者ボランティアが自主グループの設立に至るまでに必要な支援や講座が高齢者ボランティアに与える影響を明らかにすることであった。

【方法】

対象者は、介護予防の実践に取り組むことができる主体的なボランティアを養成することを目的とした介護予防リーダー養成講座を受講した高齢者（以下、介護予防リーダー）10名とした。調査方法は対象者に半構造化された個別インタビューを行い、介護予防リーダーが自主グループの設立に至る過程について調査した。分析手法は質的帰納的分析方法である修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた。

【研究結果】

分析結果をまとめたものを図示した（図参照）。介護予防リーダーは自主グループの設立

に至った特徴的な背景が存在し、《地域コミュニティへの関わり》、《介護予防活動を推進する人材を養成する講座の受講》の段階を経て《自主グループの設立》へと至っていた。介護予防リーダーが《自主グループの設立》に至るまでの過程には各段階への移行を推進する支援が存在していた。

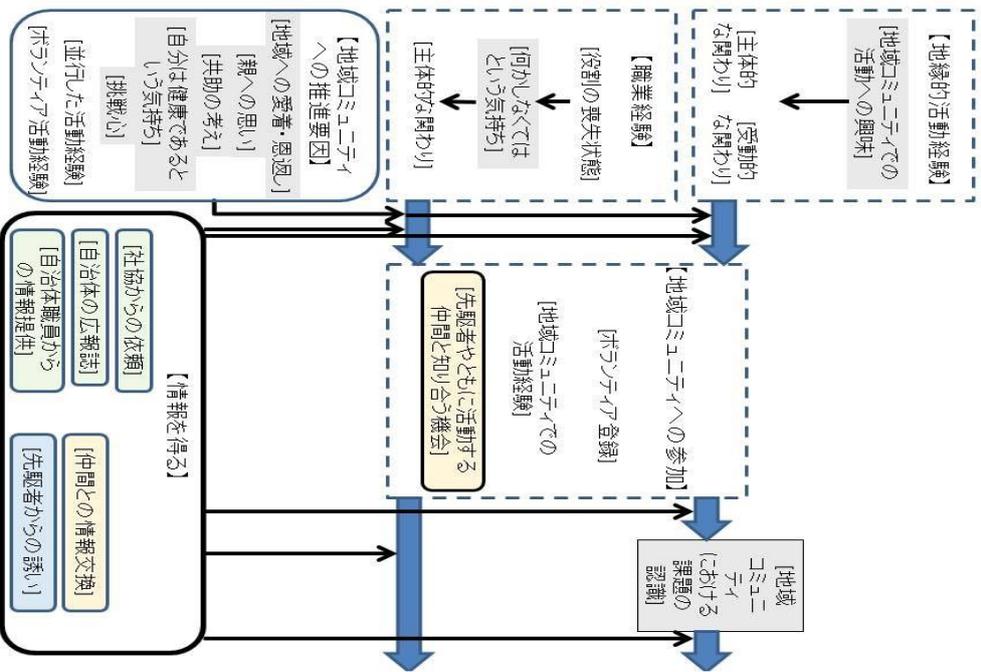
【考察】

《地域コミュニティへの関わり》や《介護予防活動を推進する人材を養成する講座の受講》の段階への移行には“情動的支援”が重要であった。また、《自主グループの設立》段階には“手段的支援”や“情緒的支援”が重要であった。また、自主グループの設立の段階には[同じ目的を持つ仲間から刺激を受ける]などの活動の促進要因や周囲との[しがらみ]、[認識のズレ]などの阻害要因が影響していた。介護予防リーダー養成講座の受講は自主グループの設立を促進する役割を果たしていたと考えられた。

【結論】

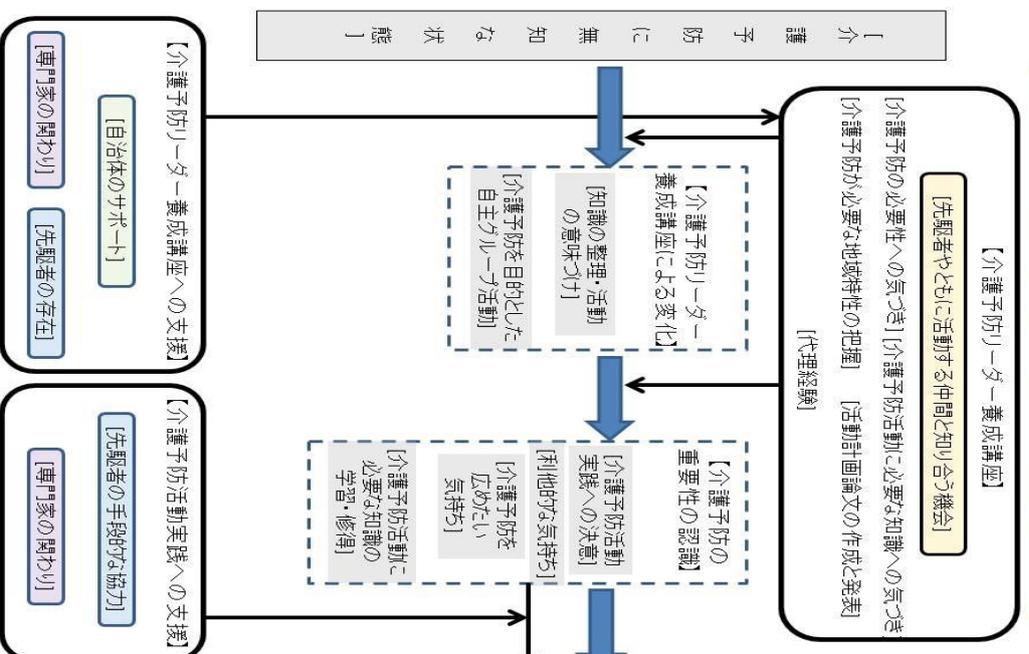
本研究では介護予防リーダーが《自主グループの設立》に至るまでの過程における支援と講座の受講が与える影響を明らかにした。本研究の結果から、主体的な高齢者ボランティアを養成する講座の仕組みを整備することや、自主グループ設立に至るまでの段階に応じた支援を検討することが自主グループ設立の推進に有効であることが明らかになった。

自主グループの 設立に至った背景



《地域コミュニティへの関わり》

《介護予防活動を推進する人材を養成する講座の受講》



《自主グループの設立》

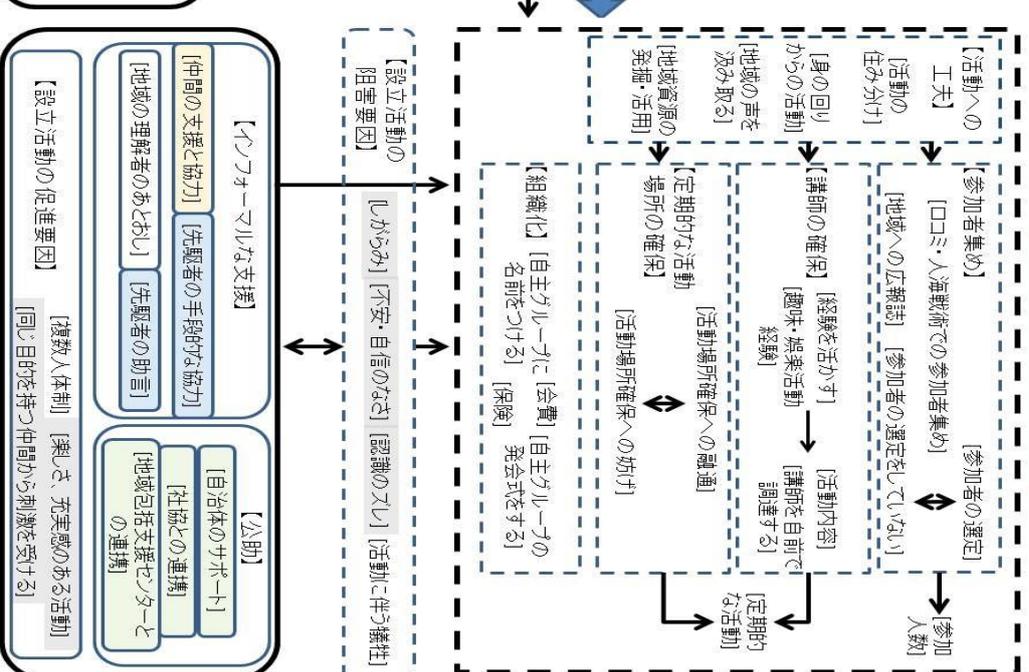


図 介護予防リーダーが自主グループの設立に至る過程

注：太い矢印⇒は時間の経過による変化、細い矢印⇒は影響の方向を示す。【 】は概念、【 】はサナカテゴリー、《 》はカテゴリーを示す。角が丸い四角の中は“支援”を示している。背景が灰色の概念は“気持ち、考え”を示している。